

# 古の岩手小学校校歌について

## 小学校名称の変遷

岩手小学校は、**明治6年(1873年)**1月、岩手村、大石村及び伊吹村の三ヶ村が共同して、旧竹中家道場「菁莪堂」を仮校舎に充て開校し、「**菁莪義校**」と称した。

**明治8年(1875年)**伊吹村は分離し、岩手村及び大石村が共同して校舎新築に着手、**明治9年(1876年)**に学令に基づき「**菁莪学校**」と改称した。校舎は、木造二階建て・寄棟造瓦葺で、教場は8室、屋根に棟屋をもち、菁莪堂の唐破風 屋根のポーチ(洋風建築の車寄せ)が移築された。

**明治14年(1881年)**学制改革により、菁莪学校を「**岩手小学校**」と改称、高等、中等、下等の三科を設置した。高等科及び中等科の区域は岩手、大石、伊吹、野上の四ヶ村であった。**明治19年(1886年)**学制改革により、尋常、簡易の2科となり、校下は岩手、大石の2ヶ村となる。

**明治26年(1893年)**学制改正により、岩手村、大石村、相川村の三村による**組合立**の「**岩手尋常高等小学校**」と改称。

**明治30年(1897年)**町村分合により、相川村の伊吹区と、大石村は岩手村に統合されたため、**岩手村立**の「**岩手尋常小学校**」となり伊吹区も校下となった。

**明治34年(1901年)**校舎改築落成式を挙行。玄関ポーチは、**明治9年(1876年)**建築の「菁莪学校」の校舎より移築した。制定校歌も発表された。

飯塚八百太(作詞と思われる) 高井徳造(作曲と思われる)の両氏が作成した。(歌詞、楽曲不明)

**昭和16年(1941年)**国民学校令により、岩手尋常高等小学校を「**岩手国民学校**」と改称。

**昭和22年(1947年)**学制改革により、岩手国民学校を岩手村立「**岩手小学校**」と改称。現在の小学校6年制、中学校3年制の確立

## 古の岩手小学校校歌について

次頁の校歌は、岩手小学校100周年誌によれば昭和初期制定となっておりますが、その年表の中に明治34年に校舎が改築された際、「制定校歌の発表」が行われたと記録されていることから、この時に制定されたのではないかと考え、古老に聞き取り調査を行いました。

昭和20年度までに国民学校を卒業された方々は**この校歌**を歌っていたこと、今も口ずさむことが出来ることも判りました。更に昭和22年度以降昭和37年度までに卒業された方々に聞き取りを行いました。が、**この校歌**を歌った記憶がなく、校歌を歌った記憶もないことから、戦後の民主化政策により歌詞の内容から校歌としての性格を問われ、歌われなくなったと思われる。

昭和38年に現在の校歌が制定されるまで岩手小学校には、校歌はありませんでした。

(岩手まち協・鈴木準二)

昭和20年度の岩手小学校卒業生である、谷自治会の「渡邊寛司」さん、漆原自治会の「児玉としゑ」さんに歌って頂き、その録音テープを基に「まなめコーラス」を指導されている「中村紀子<sup>としこ</sup>」さんに採譜をして頂きました。

今後岩手地区の芸術文化祭などで披露していきたいと考えています。

一 明神嶽は巖として

みょうじんたけ げん

権威も著るき城の跡

けんい し

齊々多士の菁莪校

せいせいだし

是れぞわれらの濫觴校

こ らんしょうこう

二 伊吹 崑崎 津嶋聴

いわさき つしまちよう

稜威も高き宮々は

みいつ

永久にわれらの岩手村

とわ

幸はえたまえ護神

さき まもりがみ

三 五條の校訓慎みて

ごじょう

光榮菁莪の名に恥ぬ

こうえいせいが

學びの道に励みつゝ

まな

出でや尽くさむ御代の為

つ

(伊富岐 岩崎 津嶋廳の説あり)

(稜威とは、天皇とか神のご威光)

